

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100198		
法人名	社会福祉法人ひかりの里		
事業所名	めだかの学校・湯村		
所在地	山梨県甲府市湯村三丁目11-10		
自己評価作成日	2010/01/05	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	2010/2/2		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりのニーズに合ったケアをするように心がけ、家庭的な雰囲気の中で、家族にもゆとりとくつろいでもらえるような、心地よい空間作りを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物3階に位置するホームの居室からは、盆地北側の山が近くに見え、遠く西側に南アルプスが望める。眺望が良く、四季を感じることが出来る。
開設1年を経過した中、実践に向けた努力をしている職員の姿勢が感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(グループホームめだかの学校・湯村)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着したケアを心がけ、利用者と近辺への散歩に出かけるようにしている。	安心して笑顔で楽しく一日々を過ごしてもらえるよう、処遇会議や実践の場でも、職員同士確認し合うなどし、共有している。しかし、地域住民として、散歩や買い物等に出ることが少なく、顔馴染みの関係にまで至っていない。	地域密着型サービスの意義と役割について認識を深め、サービス向上につなげることが望まれる。理念に沿った実践を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加するようにしている。また、運営推進会議などを活用して、意見交換に努めている。	近くの中学生の訪問を受け、歌ったり・折り紙をする等して交流している。併設施設と合同で、ボランティアによる手芸教室でコサージュ作りをしたり、地区の祭りに参加している。地域との交流は少なく、今後、散歩などを通して挨拶などする関係になりたいと考えている。	地域住民の一員として周囲に認められ、その人らしい生活が保たれることが大切である。地域活動にも積極的に参加し交流を通して、理解と協力が得られるよう取り組みを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することにより、徐々に認知症の人への理解を深めてもらおうと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を職員会議等で報告し、職員全体に周知してもらおうと同時に、その意見をサービス向上に取り入れる。	2か月毎に実施し、生活の流れ・行事・入退居等を報告している。家族からのインフルエンザ対応の質問には、ホーム側で実施することを伝えた。また、合唱用の歌詞カードの作成や手芸作品の掲示も即実行した。その他、運営推進会議の開催のお知らせを口頭から、文章で通知に変えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から解らない事例は相談にのってもらっているようにしている。	区域外入居の件で市に相談し、隣接市との合意により、入居できることとなった利用者もいる。また、市の担当者が市内事業者同士の交流を企画した管理者対象の会議に参加し、課題を話し合った。(看取り・困っていること等)	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルに従い、安易に拘束をしないよう職員に周知徹底をしている。また、研修会や会議等でも折に触れて話をしている。	研修会や会議の他、日常的に現場等でも折に触れ確認し合っている。スピーチロックと併せ、身体拘束をしないケアの認識を全職員が共有し実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが意識を持ち、虐待防止に努めている。また、日頃から利用者には尊厳を持って接するよう話し、言葉の暴力にも気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これから職員に学ぶ機会を設けて、制度を理解していってもらう。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は出来るだけ丁寧に行い、家族と確認しながら進めている。また、日頃から家族との連絡を密にして、気軽に会話できる雰囲気できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や面会時に気軽に話をしてもらおう。また、玄関に意見箱を設置して要望や苦情等を記入してもらい、その意見等には速やかに対応するように心がける。	面会時等に普段着の会話出来る雰囲気になり、何でも言ってもらえるよう声掛けをしている。その人の職歴などから、知識を聞いてやって欲しいという家族の要望があり、日常的に会話の中で実践している。その他、細かい要望には可能な限り実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、職員の意見や提案を聞き、反映できる点は積極的に取り入れていく。	夕食から就寝までの時間帯が手薄だったが、勤務体制が受け入れられ、困難な課題が改善された。(転倒・トイレ誘導・利用者からの要望等)台所が閉鎖的なので、利用者の顔が見えるよう対面式への改修を要望した結果、2月中に改修に取り掛かることが決定されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりが気持ちよく働けるように、不満や悩みは聞いてあげられるように配慮したい。また、休みの希望等も考慮していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に4回職員の内部研修を行い、技術の向上に努めている。職員が講師を行うことで、相互の勉強の場にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の施設同士での内部研修は積極的に行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取りや家族の要望等を考慮して、本人に合ったケアを行っていく。また、日頃からコミュニケーションを取り、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が意見や要望を話しやすいように、日頃から連絡を取り合う努力をしている。面会の際も気軽に声をかけて、雰囲気作りに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	臨機応変で柔軟な対応に常に心がけ、利用者にとって、何が最良かを常に考えながら支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を心がけ、自分の身内が利用しても安心して生活できるような、環境・関係作りに努める。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の面会以外にも、施設の行事等に参加してもらい、一緒に過ごしてもらう時間を出来るだけ多く作れるように配慮する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時は馴染みの場所に行ったり、友人等の面会ではゆっくりくつろいでもらい、いつでも気軽に来てもらえるような、雰囲気を作る。	近くの自宅方面を散歩コースにし(車利用)、周辺の様子を見てもらうようにしている。また、以前勤めていた職場の後輩や自宅近所の知人の面会もあり、途切れのない支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気になるように職員全員で心がけ、利用者一人ひとりの要望を聞きながらも、仲間意識を持って支え合えるように支援したい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだこのようなケースはないが、今後契約を終了した利用者が出た場合、必要に応じてフォローし関係を維持していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に話を聞いて、本人らしく過ごせるように配慮している。自分の意思が伝えられない人は家族から要望を聞き、対応をするように心がけている。	その人らしく暮らしてもらえるように、家族の協力を得ながら支援に努めている。学生時代から馴染みの賛美歌を歌う利用者や家族と一緒に材料を買い求め、手芸を楽しむ利用者もいる。利用者が家族の面会を強く望む時は、電話で声を聞いている。家族と一緒に、1階喫煙所でタバコを吸う等している方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取りを行い、生活歴を把握して職員にも把握した上で、ケアにあたってもら。また、居室に一人孤立しないように配慮しながら、本人らしく生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握して、本人らしく生活できるように支援していきたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に本人や家族から希望を聞き、反映できるような計画を立てている。また、日々の生活を見ながら、現状に即した計画に改善変更を行っている。	本人や家族の意見を取り入れ、計画書を作成し6か月毎に見直しを行っている。毎月、担当者会議で状態について意見を交換している。家族の要望を受け、散歩を計画に入れる等、見直しにつなげている。また、状態に変化がある時は、随時対応する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々の記録をつけながら、介護計画に沿ったケアが出来ているか検討し、処遇会議等でも職員間で意見交換をしながら実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や家族の希望は、安全安心の範囲で出来るだけ叶えられるように、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中に溶け込めるように、地域の行事に参加していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内にクリニックがあるので、そこでの受診が可能だという旨を家族に伝え、健康管理の支援を行っている。	かかりつけ医の受診には家族が一緒に行っている。(代わりに職員が薬だけを貰いに行くこともある。)法人内のクリニックには、職員が付き添い、受診結果はケースファイルに記録され、家族と職員は内容を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐しているので、日々の健康管理や受診の相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院との連絡を密にし、退院時にはカンファレンスを開いて情報をもらい、状態に合った介護を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した時のことを伺い、法人内にクリニックや特養があることを伝えている。	入居時に本人や家族と話し合い、意向の確認をしている。状態の変化に合わせ、その都度、本人や家族・医療関係者と話し合い支援している。法人グループの老健・特養の他、かかりつけ医や協力医療機関(入院等)との支援体制は整っている。特養へ申し込みをしている入居者もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度、救急法を内部研修で行い、急変時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、避難訓練を計画し、利用者と共に訓練を行っている。	年3回厨房からの出火や地震を想定し、エレベーターで1階ロビーや建物の玄関までの誘導や消防署による放水訓練を実施している。大型ホテルを改装した3階に位置するホームからの避難訓練は、万が一を考え時、避難方法・経路等が確立されていない。	停電や昼夜を想定し、安全な避難経路と場所の確保は大切である。建物2階の一部に、居間の窓から出入りできる屋上部分があり、一時避難の場所としての活用の検討をするなど、3階に事業所があるという条件を踏まえた実践的取り組みを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今まで生きてきた生活歴を大切に考え、尊厳を持って接している。そして、以前の生活が思い出される様な言葉かけを行っている。	トイレ誘導は、さり気ない小声で声掛けをしている。また、個々の生活歴や職歴を大切に、団体の長だった人には「会長さん」、個性の強い人には、性格に合わせた言葉かけをする等、人格を損ねない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしく生活してもらうことを大切に考えている。また、ホームの中でも、個人のプライバシーは尊重するように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の趣味は日々の日課の中に取り入れて、自由に生活してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪カットは定期的に行い、衣服も本人の希望を聞きながら選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむことができるように、食前に口腔体操を行ったり、食器や盛り付けに配慮し、食事の前にはメニューを発表している。	ご飯と汁物以外は特養で用意したものが運ばれ、利用者と一緒に盛り付けをする。また、併設特養をショートステイも同一メニューのため、検食が当番で回ってきた時のみ、職員と一緒に食事をする。	ホーム独自の献立で準備から片付けまでを、利用者の得意な場面で力を発揮してもらい、楽しい雰囲気の中、職員も同じものを食べ、自信や喜びを感じてもらうことが大切であるため、早期検討と実践を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの病歴や食習慣を考慮し、栄養バランスを見ながら、食欲が低下した時は、家族と相談をしながら食事のパターンを工夫して行く。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行い、一人ひとりのADLに応じた支援を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のリズムに合わせて、トイレ誘導・声かけを行っている。また、尿意のない人も排泄パターンをつかみ、トイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表にて、個々のパターンを把握し、昼夜共に誘導をしている。リハビリパンツとパットを利用しているが、2名は布パンツで自立している。居室にポータブルトイレを置き消臭剤を使用していると利用者もいる。	特に居室は消臭剤に頼らない汚物処理が望ましい。居室にある汚物や失禁等はパターンの把握のみに限らず、こまめなチェックと早期対応が望ましい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が足りているか、食事の摂取量や運動量はどうかを看護師と相談し、出来だけ薬に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を見ながら入浴を勧めているが、気分的に拒否の人は、次回に回すような柔軟な配慮をしている。	同一建物内の併設施設と共用のため、週2回(火・木)が入浴日になっている。合同での予備日(水・土)や足湯(冬季は休み)はあるものの、拒否者も含め、希望に併せて入浴を楽しむまでの支援には至っていない。	ホームとしての入浴施設のあり方について、再検討することが重要と考える。個々の生活習慣を大切に、希望に沿った支援に努めることを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的に一日離床しているのが難しい人は、昼食を挟んで午前午後に仮眠を取ってもらうが、夜間の睡眠の妨げにならないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に看護師が担当しているが、職員も服薬記録にチェックを入れながら、誤薬・飲み忘れのないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物の仕分けや食器拭きを、自分の仕事と思って積極的にやってくれる人や、利用者の話の中心になって話題を提供してくれる人に、協力してもらいながら、過ごしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会が少ないので、併設のユニットに気分転換に向いたり、行事の際は合同で参加している。今後は、徐々に外出の機会を増やして、利用者の希望をかなえていきたい。	併設施設と合同で法人のバスを利用し、ドライブを兼ねて季節の花見や紅葉狩りをしたり、買い物に行く時には弁当を持参して、ピクニック気分を味わったりしている。今後、近隣との交流が深まるよう、周辺の散歩も考えている。	合同での外出も大切にしながら、独自性のある外出計画が望まれる。地域住民として、地域との関わりは大切であるため、買い物や散歩等、外気に触れる機会を見つけ実践されることを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数人が本人希望で所持しているので、紛失しないように声かけをしている。買い物に出かけた際にも、支払いや釣銭が間違いないか見守りを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している人は、自由に連絡を取っているが、持っていない人は、本人の希望で職員が電話をかけている。また、職員が家族に用事で電話をする際には、本人に代わって話をしてもらう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を飾ったり、季節ごとの物を飾って殺風景にならないように、少しでも季節感を味わってもらえるように、配慮している。	ゆったりとした居間兼食堂のテーブルには季節の花が飾られ、食卓のイスや居室で自由に過ごしている。天井や壁には利用者が作った折り紙の作品が飾られていた。調度品も少なめであった。	安心感と落ち着いた雰囲気の中で、過ごすには、年代に合った居心地の良い共用空間であることが大切である。飾りつけなども工夫すると共に、運営推進会議や家族に協力を呼びかけ、調度品を充実することを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内のコーナーごとにソファや椅子を置いて、どこでも腰を掛けておしゃべりしてもらえるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には家具を自由に持ち込んでもらい、本人のライフスタイルに合った居心地の良いスペースを作ってもらっている。	入り口は紙の表札と一緒に、近くの中学生在が作ったメッセージカード付の短冊が掛けられている。テーブルや椅子・テレビ等が置かれ、自作の品やご主人の書かれた水彩画等が飾られたり、馴染みの品が持ち込まれ、その人らしい居室づくりとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内に手すりを巡らせ、転倒しないように配慮したり、所々に椅子等を置いて休憩しながらでも、自由に歩行できるように工夫している。		